ICTを活用する新しい地域交通システムのサービスデザイン

広瀬貴之（工学研究科）松谷恭太（工学研究科）　吉井健　（経営管理大学院）鈴木慶昭（情報学研究科）
平井良暉（工学研究科）梅杰　（工学研究科）　谷村嘉久（経営管理大学院）高橋憲生（情報学研究科）

目的：交通システムの有効活用による地域コミュニティの活性化
- 今後，地方問題の解決にはコミュニティ間の連携が不可欠
  - まずは人と物の流れ（＝交通）からアプローチ

課題：宮城県石巻市周辺を題材とした交通サービスのデザイン
- ✓ 生活に自家用車が不可欠な一方，高齢化で運転できない人多数
- ✓ 地域開発や地域産品のアピールが弱く，活性化を推し進めにくい
- ✓ 東日本大震災により，地方問題が加速・顕在化した地域でもある
  - 本課題への取り組みは，同様の問題を抱える地域の活性化に向けたモデルケースにもなりうる

課題解決案①：車を利用したボランティア・ツーリズム　概要

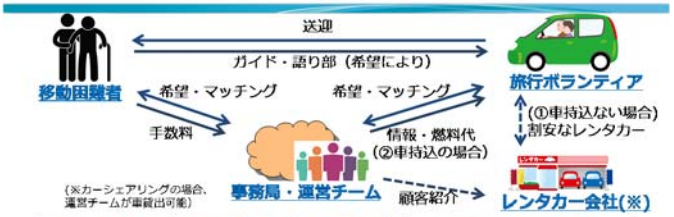
◆概要：**全国からドライバーのボランティア**を募集。1日2-3時間ほど地元の移動困難者を車で送迎する**社会貢献**を行った後、残る時間で**観光**を楽しむ。希望により、地元民の語り部の話を聞くことができ、他では聞けない地元の知識も得られる。

◆現況：地方では公共交通機関が少なく、多くの移動困難者がいる。カーシェアリング等を行なっているが、ドライバー数自体が少ない。一方で、全国では地方に貢献・理解したい人は多く、「**語り部の話を聞きに来る観光客**は少なくとも**年25,000人**、多くが車利用」（石巻市観光課から聞き取り）

◆メリット：**交通の利便性向上**とともに、地元と全国の人々の**交流・コミュニケーション・理解・共感の向上**。観光目的であり、中長距離移動でも運用可能。

FBL/PBL 地域交通システム

車を利用したボランティア・ツーリズム　具体策

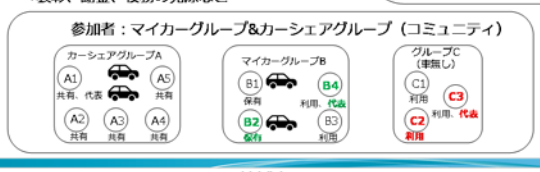


<タスク・メリット>	①ドライバーのみ（車持ち込みなし）	②ドライバー＋車持ち込み
旅行ボランティア	割安レンタカーを使って、1日2-3時間の送迎。残る時間で自由観光。	自分の車で1日2-3時間の送迎。残る時間で自由観光。相応のガソリン券受領。
	地元民によるガイド・語り部の利用可能	
	地元に関する情報入手可能	
移動困難者	タクシーより割安な移動費。バスより便利。	
	希望に応じて、旅行者向けガイド・語り部を行う（他の地元民も含む）	
事務局・運営チーム	情報提供・マッチング・調整・資金授受・プロセス管理（ICT・人による）	
レンタカー会社	顧客紹介の代償として、割安な価格で提供	—

FBL/PBL 地域交通システム

課題解決案②：マイカー及びシェアカーの相乗り

◆現況　：安価かつ維持可能な移動手段が必要！
◆仕組み：電話のみで「依頼」と「相乗り」を調整
◆参加者：マイカーグループ&カーシェアグループを統合
→マイカーグループは、相乗り経験済のグループ（家族や親族、お隣さん同士など）
→カーシェアグループは既存のグループ
→車無しグループは新設で、コミュニティ内でグループ分け
※各グループごとに代表者を決定
※法令上、各グループで実行できることは異なる
◆報酬　：仕組みを維持するための報酬を設定
→表彰、謝金、役務の免除など



FBL/PBL 地域交通システム

食べ歩き市場とその導線改善による石巻観光の活性化

ボランティアツーリズムと相乗りによる人材活用

課題解決案③：石巻産魚介食べ歩き市場　概要

FBL/PBL 地域交通システム

石巻産魚介食べ歩き市場　具体策

「メルカド・イシノマキ」（仮）

シーフードコンテンツの強化と発信

- 石巻・旧商店街地区に食べ歩き市場新設（ブース・屋台型）
- 調理＆出店の場を提供→初期投資なく若い料理人が参入可能
- 観光客＋地元住民も継続的に楽しめる街中シーフードコート

◆**調理学校や水産学校と提携**→**海産物料理実習環境の提供**
- 学生が調理知識を活かし創作メニューをマーケットで提供
- マーケット来場者へシーフード料理教室も開催
- 水産学校等のサテライト施設誘致→学生やイベント参加者の増加

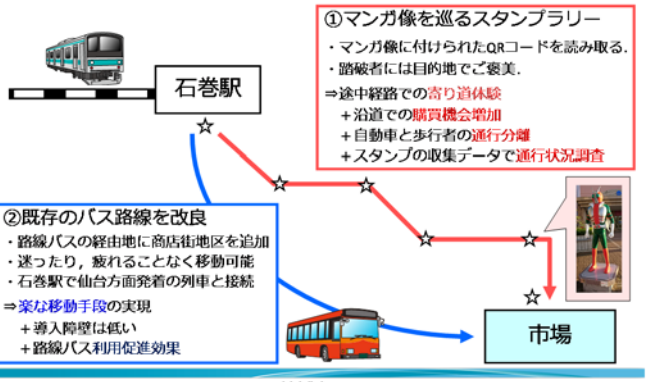
◆**シーフードグルメイベントの開催**→**ブランドイメージ発信**
- 「S-1グランプリ」「ワールドシーフードフェス」など

◆**マーケット周辺の交通インフラの最適化**→**歩いて楽しめる街へ**
- 市場周辺の歩行者天国化とエリア辺縁に駐車場の整備
- 駐車場脇にスーパー等開設（日用品買物機会の提供）

FBL/PBL 地域交通システム

課題解決案④：石巻駅～食べ歩き市場間の移動環境をデザイン

◆片道徒歩10分の距離に2つの移動環境を設定



FBL/PBL 地域交通システム